

お客様各位

この度の東日本で発生した大地震におきまして、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。皆様の安全と被災地の一日も早い復旧をお祈り申し上げます。

また皆様におかれましては、日頃より弊社の和豚もちぶたをご愛顧いただき心より御礼申し上げます。

東京電力福島第一原子力発電所(以下、原発)の事故やユッケ食中毒事件などにより、農産物に対する安全性の問題が取りざたされておりますが、生産者として改めて弊社の豚肉の安全性についてまとめましたのでお知らせ致します。

和豚もちぶたの安全性

農場の生産過程での食の安全方針についてはHP (<http://www.gpf.co.jp/safety/index.html>) にてご紹介している通りです。安全であるこだわりの豚肉を生産するためには多くの厳格なステップが要求されます。

飼料に起因する安全性及び品質の問題

私たちが使用している飼料は農水省の飼料安全基準に基づいた原料^(※1)のみを使用し、そのほとんどが厳しい安全基準で管理を行っている大手飼料メーカーに委託して製造しております。

東北地方の仙台、石巻、釜石、八戸の各工場は津波により壊滅的な被害を受け、飼料供給に困難な状況が発生しましたが、現在では他地域の工場を利用しながら弊社の配合設計に基づいた飼料生産が再開されております。

弊社指定の配合設計による飼料が順調に供給できないとブランド豚肉としての品質を維持できない可能性があります

※1.配合飼料の主原料はとうもろこしです。私たちが使用しているとうもろこしは主にアメリカ産です

原発問題と豚肉の安全性

原発の事故で直営農場の大気や土壌の放射能汚染は大丈夫かというご質問がございます。原発から半径 20km 以内に所在する農場はありませんが、福島県では川俣町山木屋地区に繁殖農場、二本松市と西白河郡中島村に肥育農場があり、繁殖農場は計画的避難地域に指定されました。そのため、繁殖農場の移転を余儀なくされております。

現在、繁殖農場で搬出される豚はすべて福島県の家畜保健所により、体表面の放射線量の測定を行っていますが、今まで測定結果に一度も問題はなく通常通り搬出しております。

豚は野外放牧せず、屋内で飼育しているため、放射性物質を直接経口摂取することはなく、飲み水につきましても食品衛生基準に合致した安全性の高いものを与えております。

二本松市あるいは中島村で肥育された豚は、主に新潟県の食肉センターで屠畜処理されます。食肉センター内の食肉衛生検査所では安全性を期するために厚生労働省による監督のもと、筋肉や肝臓の放射線測定が定期的に行われており^(※2)、豚肉として流通されるまでに公的な機関による検査が2度あり評価されています。

※2:新潟県は柏崎原発などが所在する県であり、各種の放射線検査を積極的に実施しウェブ上で公開しています。
(<http://www.fureaikan.net/svokuinfo/>)

衛生レベル維持のための組織化

食肉センター以降の衛生管理は食品衛生法で規定されています。食肉を扱う一般的な問屋は規定に則り管理マニュアルを作成していると思われませんが、実際に管理マニュアル通りに作業され衛生レベルが保たれているのかといったことは個々の問屋に任されており、今回のユッケ食中毒のような事件がいつ起きても不思議ではありませんでした。

私たちは、私たちの豚肉しか取り扱わない問屋(以下、指定問屋。一般的な食肉問屋は輸入肉も含め牛、豚、鳥など様々なジャンルの食肉を扱う総合商社的な機能を有しています)とともにより高い衛生レベルを維持できるよう協議を繰り返し行っております。

例えば、屠畜された枝肉をカットする際の衛生基準の厳守、流通過程の温度管理、エンドユーザーまでのトレーサビリティなど、今では当たり前と思われるようなことを長年にわたって研究、協議、実行しています。指定問屋はそれぞれが和豚もちぶた基準に従って丁寧に流通しております。

生産された豚肉のほとんどが、私たち生産者主導による仕組(ポークチェーン、グループ生産者-指定問屋-小売業者)の中で流通しています。生産者がこだわりを持ち、心をこめて生産した豚肉を間違いなくお客様にお届けするためには、流通におけるこうした取り組みが不可欠なのです。

このような背景もあり、第三者機関による私たちの安全基準の認証を受けるために、生産から加工、流通、販売に関して ISO22000(食品安全の国際認証)を取得しました。^(※3)

※3.ISO22000 への取り組みについてはHP (<http://www.gpf.co.jp/safety/safety.html>)をご覧ください。

まとめと今後の取り組み

今回、様々な食の安全を揺るがす問題が発生している中で、私たちの取り組みと現況をお知らせしました。

大地震を受けて私たちのグループでも多くの農場が被災しましたが、今では震災前の状況まで復旧しつつあります。しかし、原発問題だけは現在も進行中です。川俣町にある直営農場は計画移転を進めておりますが、多くの豚を抱えているため短期間での移動や報道にあるような無慈悲な農場閉鎖はできません。現在でもスムーズに行政指導に従えるよう創意工夫は続けており、より安全に安定した生産が移行できるよう最大限の努力をしていきたいと思っております。

衛生面につきましても、これまで通り協議を繰り返し、より高い衛生レベルを、確実に実行していきたいと思っております。

これまで通り安全な豚肉を皆さまにお届けできるよう最善を尽くしていく所存でございます。

2011年5月25日 グローバルピッグファーム株式会社